

## 21・老福連 第15回職員研究交流集会 in 宮城

テーマ：「地域を支える福祉と私たちの役割～大震災から4年を経て」



第15回職員研究交流集会 in 宮城に全国114施設・法人から330名を超える参加  
夕食交流会フィナーレは、参加者全員で「花が咲く」を大合唱～

### 参加報告書

日時：2015年11月7日(土)～9日(月)

場所：TPKガーデンシティ仙台

報告者：家族会運営委員 山野英治

#### ◆ 1日目

##### 老福連からの基調報告

21老福連事務局長 正森克也氏

介護保険制度が始まり15年たつが課題が浮き彫りになっている。

地域包括ケアシステムの名のもとに役割を社会福祉法人に押し付け公的責任は名ばかりになろうとしている。地域の中でどのように地域包括の役割をはたすかが提起された。

##### 記念講演Ⅰ 「原発と震災—福島、被災地の今」

講師 浜通り医療生活協同組合 理事長 伊藤達也氏

震災と原発における福島の現状報告があった。

賠償の打ち切りと帰還の促進で問題を終わらせようとしている現状の報告があった。東京から見るとなかなか伝わってこない、被害者の現状の厳しい現実の一端が見え考えさせられる。

##### 記念講演Ⅱ 「その生き方を尊重する介護」

講師 特養ホームシルバーかりや 施設長 早川昌宏氏

現場からの経験と知識で“その方の生き方を尊重する介護”具体的な事例

をもとに説明があった。“バリデーション”と“パートナーケア”の実践が参考になった。

バリデーションとは、アルツハイマー型認知症および類似の認知症の高齢者とコミュニケーションを行うための方法の一つです。認知症の高齢者に対して、尊敬と共感をもって関わることを基本とし、お年寄りの尊厳を回復し、引きこもりに陥らないように援助するコミュニケーション法です。

## ◆ 2日目 分科会

I分科会“家族介護者を支える、家族の介護者を支える”をテーマに参加者から発表があった。

- ① 家族会の取組について  
福島県 介護老人福祉施設はなひらの 大内敬史氏
- ② 家族とともに歩む～ご家族とのかかわりで気づいたこと～  
岡山県 特養ホーム健正園 中野知恵氏
- ③ 家族会が主体となって取り組む「看取りを考える勉強会」  
白十字ホーム家族会 運営委員 山野英治氏

各報告の中で、いくつか印象に残ったことがある。

- ① 入居退去者の家族の存在。
- ② 職員がしらないところで家族会が動いて、喫茶室などを立ち上げ実施していた。

## ◆ 3日目

・特別講演 「私たちが目指す『地域包括ケア』に向けて、考えなければならないこと」  
立教大学 柴田英明教授

・シンポジウム

コーディネーター 社会福祉法人虹の会 事務局長 井田智氏

パネラー 白十字ホーム ホーム長 西岡修氏

町田地域包括支援センター 所長 山田敦子氏

- ① 厚労省が考えている2025年の地域医療構想や福岡で行われている俳諧模擬訓練。
- ② 施設の場所を地域の人に提供し、結果地域の方のボランティア活動につなげる。
- ③ 本来の地域包括ケアが目指すことに、自治体のかかわりが見えない。

まとめ

白十字ホーム家族会の充実した活動や、運営があらためて、非常にまれな成功例であることを実感した。初めての参加であったが、いろいろ考えさせられる課題が多種多様であることを感じた。他施設の方は“いかに家族会に参加してもらうか”悩まれている。また、ある施設では、地域の現状掌握を行うため、家庭訪問を行っている報告があった。この交流会に参加している方の多くは若い方であったことが印象に残った。

☆「21・老福連」って何？

正式名称は「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」です。全国の老人ホームの施設長有志の呼びかけで2001年に設立しました。本音で語り合い、お互いの経験を真摯に交流し合っていける場を作り上げ、豊かな援助実践と公的福祉の確立を目指しています。

☆「職員研究交流集会」って何？

毎年、全国で働く仲間が一同に会し、実践報告、研究発表等を行うものです。共に学び、悩み、語り、話し合う学びの場であり、高齢者主体の援助実践、ケアの質、暮らしを豊かにするためのものです。